

2012年
11月1日

No.152

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24

浦谷貞子 気付
さざなみネット

(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)

TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協第7回定期大会 今ある権利を 未来の世代に

10月27日、金融労連近畿地協第7回定期大会が、大津市アヤハレークサイドホテルで開かれ、来賓・代議員・役員・オブザーバー42人（委任状5人含む）が集まりました。さざなみネットからは5人が参加しました。

大会は「近畿地協第7回定期大会日程」（下記）のとおり行われ、岡野議長は「仕事に追われて、組合活動まではと言われることがあるが、今ある権利は最初からあったわけでなく、たたかいによって勝ち取られたもので、現役世代のためだけでなく、未来の世代につなげる役割がある。そのために組合員誰もが参加したくなる取り組みが求められている。活動をふり振り返り具体化しよう」と呼びかけられました。

金融労連・滋賀県労連・滋賀商工団体連合会・日本共産党から来賓あいさつの後、議案が提案され、単組・支部・分会から11人が発言（一部項目下記）、さざなみネットからは植木さんが裏面のとおりに発言しました。採決の結果全議案とも満場一致で採択されました。

その後、新年度の役員選挙が行われ、次の方々が選任されました。



主催者あいさつをする岡野議長

- (議長) 岡野 展子 <再>
- (副議長) 阿部 正巳 <再> 浦野 弘 <再>
- 車谷 薫 <元> 富士野三男 <再>
- (事務局長) 福井 悦雄 <再>
- (事務局次長) 伊藤 宗孝 <再> (敬称略)

新役員を代表して、岡野議長があいさつをし、最後に阿部副議長の閉会のあいさつをしました。

発言項目

- ・非正規労働の仲間から、雇用破壊・差別的な処遇・パワハラ被害などと闘って体験した生の声、これからの闘いについて。
- ・新入職員全員を組合に迎え入れるための活動について。
- ・臨給復卒への仲間の切実な要求をくみ取り、要求化して勝ち取った活動の経験について。
- ・携帯メールを活用し連絡体制をつくり、会議への参加者を増やしたり、機関紙を発行して、活動を強化してきた経験について。

近畿地協 第7回定期大会日程

- 議長選出・大会役員選出
- 議長あいさつ・来賓あいさつ
- 祝電・メッセージ紹介・大会役員報告
- 第1号議案
- たたかひの総括とすすめ方
- 討論・採決
- 第2号議案 決算報告・会計監査報告
- 討論・採決
- 第3号議案 予算(案)提案
- 討論・採決
- 役員選挙 資格審査委員会報告
- 投票・投票結果発表
- 役員あいさつ
- スローガン採択
- 閉会
- 交流会



岩波 美智子さん 画



植木さんの発言 現役時代の経験を活かし 前を向いて活動

現在の権利は先輩たちが 仲間とともに闘い取ったもの

こんにちは。私は金融ユニオン近畿支部滋賀分会、通称さざなみネットの植木です。会計監査をしています。

かつての滋賀銀行従業員組合での組合活動と現在の自分の思いを話させていただきます。

1963年（昭和38年）滋賀銀行に入行、当時の組合は、地銀連（全国地方銀行従業員組合連合会）に加盟して3年目で、職場の労働条件はずいぶんよくなりました。それは、4つ上の先輩の話によると、入行の時に結婚したら退職する誓約書を書かされ、生理休暇もなく、女子の時間外労働も午後9時を過ぎても帰られない状態でした。私が入行したときは、生休が制度化され、時間外労働は午後7時50分まで、どんなに仕事が残っていても、いつも帰れました。

いろんな権利というものは、当たり前にあるものではありません。先輩たちが仲間と苦勞をして闘い取ったものだということがよくわかりました。私も自分のため、仲間のためにがんばらなければと思いました。

経営の介入で組合分裂 職場内外からの支援・固い団結 不屈の闘志で歴史的な勝利

ところが1965年（昭和40年）11月に経営者が介入し、組合は分裂させられました。その後は闘う組合に対する徹底した弾圧攻撃の中、賃金に差がつくし等級はストップ。仕事は労働強化で、けんしょう炎になる方もたくさんおられました。私たちは、指名ストなどで本店前に座り込みをしたり、職場内外からの全面的な支援を受け、固い団結と不屈の闘志をもって闘い、1973年（昭和48年）基本的な部分は組合主張通りという歴史に残る大勝利をおさめることができました。

私は分裂後1年で、琵琶湖の西岸をはしる江若鉄道で片道50分の店に転勤させられました。そこでは支店長や1部の労働組合役員に除け者にされることもありましたが、周りの同僚たちは同じ合理化攻撃を受けているので、何の隔たりもなく付け合えたり、地域の労音活動を通じて青年たちの交流も生まれました。

退職後も「一人はみんなのために、 みんなは一人のために」の心で

以後6カ店の勤務を経て、2004年の5月末に退職、苦しいことや厳しいことがありましたが、それ以上に素晴らしいことがあったと思います。その後年金者部会に席を移し、退職1年5ヵ月後の2005年11月に、同



発言をする植木さん

じ仲間とともにさざなみネットを設立しました。

私は、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉は、社会に出て組合に入って耳にした言葉ですが、私はとても好きです。退職後地域の女性団体、新日本婦人の会大津支部の半専従の任務を引き受けたのも、一人一人の切実な要求をみんなが力を合わせ実現していき、楽しみながら子育て、老後も安心して人間らしい日々を送るためにがんばれると思ったからです。

ちぎんの会 現役時代の経験生かし 各地域・各分野で活躍

先日10月17・18日と「ちぎんの会」総会が宮城県松島で開催されました。「ちぎんの会」は今467名の会員で、その日は76名参加、うち滋賀からは5名が参加しました。かつて現役時代活躍された人たちが、今はその経験を生かし、各地域、各分野で活躍されている話を聞き励まされました。

2日目は現地の科学者でもある小林立雄さんに東松島から石巻、女川一帯を案内してもらいました。1年7ヵ月過ぎた今も津波の後は生々しく残り、かろうじて建っている家はがらんどろ、七十七銀行女川支店では13名が亡くなっておられます。今までの経験から3階に避難すればとの思いが、こんな結果になってしまったようです。同じ場所にあった岩手銀行や信用金庫の人はみんな助かっておられたとか、現地の状況に声も出ず、ただただ涙があふれました。目にした惨状を決して忘れず、国をあげての復興に、早く政府が立ち上がってくれる働きかけもしていかなければと思いました。これから小さな一歩ですが、前を向いて歩いていきたいと思っています。

